

MESSAGE FROM HARUTOSHI FUKUI

『真夏のオリオン』の真夏は、2009年の真夏なのだ。

映画『ローレライ』の公開から四年。このわずか四年の間に、時代は恐ろしい勢いで変わりました。『ローレライ』においては、未来、すなわち我々が生きる現代に希望を託し、進んで捨石になった人々の姿を描きました。そのような困難と犠牲を経て現在の日本がある、と確認することで、バブル崩壊以後の空白から抜け出せない現代日本人に、生きる意義を再発見してもらえないものかと日論したのです。

過去を確認することで現代のありがたさを知る。『ローレライ』のテーマはそのように要約できます。それは、いろいろ問題があるにせよ、とりあえずみんなが生きていける世界においてのみ通用する論旨でした。しかるに、2009年。海に向こうで証券会社のひとつが潰れただけで、「みんなが生きていける世界」はあっさり終わってしまいました。他にも新型インフルエンザやら環境危機やら、国と国か人類社会を脅かす問題がごろごろしている。我々は不幸にして、「地球の危機」「人類の危機」という言葉リアルに受け止めねばならない、人類史最初の人間たちになってしまったのです。このような時代に、過去を確認して現代をありがたがってられるのか？ 答えは考えるまでもありません。現代こそが困難な時代になったのです。六十億の人間は生きていけないと実証された惑星で、六十億の人間が生きていかねばならないのです。

だとすれば、我々が欲するフィクションはひとつ。困難を生き抜く勇気、死地を乗り越えて生還する人々の物語です。

『ローレライ』でも使った第二次世界大戦下の日本という舞台設定には、この要件を満たす素材もまた含まれていました。それを気づかせてくれたのが池上司氏の原作です。

死へ向かう道具を、生きるために使う。原作が提示したクライマックスのアイデアこそ、あらゆる普遍に繋がる人間の知恵でしょう。となれば、あとはこの実直な戦記小説をいかにして現代的エンターテインメントに仕立て直すか。それが自分に課せられた仕事になりました。

すなわち、我々は『真夏のオリオン』という作品において、過去を描いたつもりはありません。あの時代を必死で生き抜いた人々は、これから困難と闘っていかねばならない我々の似姿であり、そこで生じる葛藤と不和と信頼の物語は、そのままわたしたちのものなのです。過去を確認することで現代のありがたさを知る、幸せな時代は終わりました。これからは、過去の困難を生き抜いた人々から学び、明日に活かしていかなければなりません。

『真夏のオリオン』の真夏は、2009年の真夏なのです。

監修・脚色 **福井晴敏**

STORY

「オリオンよ、愛する人を導け…」

現代——教員をめざす倉本いずみ(北川景子)のもとに、アメリカから一通の手紙が届いた。手紙には、差出人の祖父の遺品という楽譜が添えられていた。その楽譜は、いずみの祖母・有沢志津子が書いたものであった。日本人の手で書かれた譜面が、なぜ、時を経てアメリカから届いたのだろうか？ いずみはたった一枚の楽譜を頼りに、64年の時を紐解くことになる…

1945(昭和20)年8月。第二次世界大戦末期、沖縄南東海域——日本海軍は、米海軍の燃料補給路を叩くため最後の潜水艦隊を配備していた。日本の戦局は日に日に悪化を辿り、米軍の本土上陸が近い今、この作戦は最後の防衛ラインともいえた。

イ-77の艦長・倉本孝行(玉木宏)は、共に同作戦に参加するイ-81の艦長・有沢彦彦(堂珍嘉邦)とは海軍兵学校からの親友であり、その妹・志津子(北川景子・二役)とも互いに想いを寄せ合う仲であった。出航前、志津子は倉本に自作の楽譜を手渡した。イタリア語で『真夏のオリオン』と題された譜面に

は、倉本へのメッセージが書き添えられていた。

「——オリオンよ、愛する人を導け」

真夏の夜空に輝くオリオンは吉兆といわれ、志津子はその星に愛する人の帰還を願ったのだ。

倉本たちが迎え撃つのは、米海軍駆逐艦パーシバル。艦長のマイク・シュワートは、米海軍きっての歴戦の勇士であり、日本軍の人間魚雷「回天」の攻撃で弟を失くしたことで、さらなる闘志を漲らせていた。シュワート艦長は、大胆かつ周到な知略で前衛の有沢が指揮するイ-81の防衛ラインを突破し、倉本たちの艦へと迫った。

命を賭した戦いの中でも、生きる希望を決して失わないイ-77潜水艦艦長、倉本孝行。水面下の敵を徹底的に追い詰める駆逐艦パーシバル艦長、マイク・シュワート。互いに知力と体力の限りをつくした最後の戦いの熱い火蓋が切って落とされた。パーシバル艦との激戦の果てに、イ-77は甚大な損傷を受け、艦内酸素の残量もわずか1時間となった。起死回生の手段は、艦内に搭載された人間魚雷「回天」の発射のみと思われたその時、倉本艦長の下した決断とは……。



6.13 ROADSHOW

フジTV前・アクアシティお台場
シネマメディアージュ
☎ 03 (5531) 7878
通常料金での全席指定・定員入替制
http://www.cinema-medialage.com

劇場内の映画の
撮影・録音は犯罪です。
映画館の情報は
www.eigakan.org
0120-550098



艦内に残された酸素は1時間。
希望への作戦が今始まった。

64年の時を越えて今、アメリカから届けられた楽譜「真夏のオリオン」とは、「亡国のイージス」「ローレライ」の福井晴敏が4年の沈黙を破って放つ、第二次世界大戦末期、生きる希望を描いた一大エンターテインメント、誕生。

真夏のオリオン

Last Operations Under the Orion

玉木宏 北川景子 堂珍嘉邦 平岡祐太
黄川田将也 太賀 松尾光次 吉泰むつし 奥村知史 戸谷公人 三浦悠 山田幸伸 伊藤ふみお 鈴木拓

吉田栄作 鈴木瑞穂・吹越満・益岡徹

監修・脚色: 福井晴敏

原作: 池上 司「雷撃深度一九四五」池上 司著「文春文庫刊」映画化原作: 真夏のオリオン/福井晴敏・監修 熊田龍三郎著(小学館文庫刊)
監修: 藤原野織 脚本: 長谷川康夫 熊田龍三郎 NYユニット監修: 岡田豊二 音楽: 宮代太郎 ヤマトハコップ 主題歌: 「願い星-I wish upon a star」いつか(エイベックス/イ)

制作: テレビ朝日 東宝 博報堂DYメディアパートナーズ バップ 小学館 木下工務店 デスタニー 日本出版販売 朝日放送 メールレ 朝日新聞社

manatsu-orion.com

日本よ、
浮上せよ!
6.13

日本よ、浮上せよ!

日本人の手によって書かれた一枚の楽譜『真夏のオリオン』が、64年のときを経て今、あの夏のすべてを語り始めた…

1945(昭和20)年8月14日 第二次世界大戦・終戦前夜一太平洋
巨大戦力を誇るアメリカ駆逐艦に日本最後の希望「イ-77潜水艦」が挑む
海上の知将 vs 海中の天才

知力の限りを尽くした究極の攻防戦が今、始まる!

日本人の心を揺さぶるテーマ&スケール、ここに誕生。

『真夏のオリオン』よ、浮上せよ。

1957年公開のアメリカ映画に、「眼下の敵」という作品がある。第二次世界大戦中のドイツ潜水艦とアメリカ駆逐艦の対一の攻防を描いたものだが、いわゆる戦争アクションとは一線を画し、両艦二人の艦長が繰り広げる人間対人間の信念と誇りのぶつかり合いこそが、ドラマの主軸だった。そしてすべての決着がついたとき、互いの間には、艦長としての誇りとシーマンシップにより、深い友情が生まれていた。この名作こそが、『真夏のオリオン』の出発点であった。我々は、脚本開発の足掛かりとして、第二次世界大戦での海戦を生きた、日米の退役軍人とその家族に綿密な取材を続け、映画に勝るとも劣らぬエピソードを掘り上げていった。そうした取材の結果、生み出されたのが、本作の主人公、イ-77潜水艦艦長「倉本孝行」像であり、対する米駆逐艦艦長「マイク・スチュワート」像である。

『亡国のイージス』『ローレライ』の福井晴敏が、4年の沈黙を破って放つエンタテインメント超大作が遂に完成。

同じ頃、製作陣は一編の小説と出会う——池上司の著書『雷撃深度一九・五』。1945年(昭和20年)7月、日本海軍潜水艦イ-58が米巡洋艦インディアナポリスを撃沈させた歴史的な戦いをモデルにしたこの小説には、クライマックスで潜水艦艦長(小説では、その役を担った人物)が発案し実行する、空前絶後の胸のすくような「フェイク」ともいえる作戦が描かれていた。これを果てなく続く戦闘の終着点と定め、そこに至る過程を新たに創造しストーリーの軸とすることで、脚本の骨格はほぼ決まった。しかし、どうしてもクリアし、作品に反映させなければならないことがあった。

——この映画が単に過去のある時間を描くものであってはならない。
——今、この時代に向けてこそ伝えるべき「何か」を持たねばならない。
そんな思いから、すでに『ローレライ』という潜水艦を舞台とした映画を手掛けた福井晴敏の参加を切望した。壮大なフィクションの中に時代の真実を追い求めた『ローレライ』から、今度は、時代の真実の中に大いなるフィクションを投げかけることで、この物語を現代に投影するという最も重要な命題が彼に託された。そして福井晴敏が生み出した、「60年を経て届いた一枚の楽譜」というひとつの大きなシーケンスは、まさに過去と現在を繋ぎ、作品に命を吹き込み、『真夏のオリオン』というタイトルに結実したのである。

監督は、「地下鉄に乗って」「山桜」「深呼吸の必要」など、優れた人間ドラマの演出に定評のある篠原哲雄。緊迫感溢れるドラマを引き立てるサウンドトラック&主題歌を、『レッドクリフ』シリーズなど世界で活躍するコンポーザー・岩代太郎が手がける。満を持してのデビューとなるいつかの「願い星~I wish upon a star~」は、観るものの心を昇華させることとなるだろう。今日、考え得る最高の布陣が揃い、『真夏のオリオン』は遂にスクリーンという大海に出航していく。

誰もが信頼をよせる理想のリーダー像、イ-77潜水艦・倉本艦長を玉木 宏が熟演

キャストにも最高に理想的な顔ぶれが集結。主人公イ-77潜水艦・艦長、倉本には人気実力とも若手ナンバーワン俳優の玉木 宏、徹底した役作りをもとに理想のリーダー像を見事に演じきる。現代で『真夏のオリオン』の楽譜を手にする倉本いずみ、有沢の妹・志津子の二役をいま最も注目を集める女優・北川景子が演じ、そして倉本の無二の親友で、僚艦イ-81潜水艦艦長・有沢を、トップ・アーティストとして活躍するCHEMISTRYの堂珍嘉邦が俳優としてスクリーンに初登場。また、倉本を支える個性溢れる幹部乗員には、平岡祐太、吉田栄作、吹越 満、鈴木 拓(ドラクワドラゴン)、益岡 徹という顔ぶれが揃った。さらに、黄川田将也、太賀、松尾光次、古葉むつとし、奥村知史、戸谷公人、三浦 悠ら、注目の若手俳優たちが加わって、既存の戦争映画のイメージを一新する鮮烈でエネルギー溢れる演技を披露する。

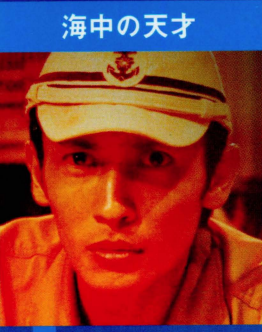
【日本映画の枠を超えたスケールでのリアル&迫力の映像世界を実現】

撮影にあたっては、潜水艦という限定された空間ながらも様々な角度から撮影を可能にするため、東宝スタジオ内に「イ-77潜水艦」の巨大セットを建造。「発令所」「機関室」「魚雷発射管室」などは計器やバルブのひとつまで徹底したセットを作りこみ、イ-77潜水艦・艦内を再現した。また、イ-77潜と対峙する駆逐艦パーシバルは、本物にしか出せないリアルさを求めるこだわりから、第二次世界大戦中にアメリカ海軍の大西洋護衛艦として数々の海戦に参戦し、終戦後はニューヨーク州アルバニー市にて保存されている駆逐艦で撮影。さらに駆逐艦が海原をダイナミックに走るシーンは、メキシコ海軍の協力を得て第二次世界大戦後アメリカ海軍から譲り受け、今なお、現役として機動している駆逐艦を航行させるなど、日本映画初となる破格の協力態勢を得て本物にしか生み出すことが出来ない迫力あるリアルな映像を実現した。

● イ-77潜水艦

潜水艦艦長

海軍兵学校を卒業後、駆逐艦、戦艦、潜水艦などの勤務を行い実戦経験を積みながら、それぞれの適任した艦隊に配属となる。艦長といえば海軍のベテラン軍人というイメージがあるが、海軍兵学校卒業後6年で少佐として艦長を任命されることもあり、ほとんどが20代後半から30代という若さで艦長を務めた。



倉本孝行艦長 (玉木 宏)
自由奔放で独特の戦術感を持つ。誰に対しても平等に接し、絶対絶命の状況でも決してあきらめない強い心を持つ。

医務科

分隊長:軍医長
所掌業務:乗員の医務衛生管理(極めて劣悪な生活環境で勤務するため、軍医長の存在は必要不可欠な存在であった)。



坪田 誠 軍医長 (平岡祐太)
軍医長として初めて潜水艦に搭乗。今回が初出撃となる。

航海科

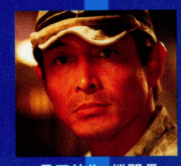
分隊長:航海長
所掌業務:海望鏡の整備、見張り、手旗信号、発光信号によるビジュアルな通信。自艦の位置を計測する天測(六分儀を使用して天体の位置から自分の位置を計算する)等は、幹部が実施



中津 弘 航海長 (吹越 満)
経験をもとに状況进行分析する頭脳派。倉本の指揮に戸惑う。

機関科

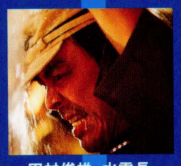
分隊長:機関長
所掌業務:内燃機、ディーゼルエンジンの運転及び整備、エア・コンプレッサーによる補給、各種ポンプ(ビルジポンプ、海水ポンプ、トリムポンプ等)の運転及び保守整備。



桑田 伸作 機関長 (吉田栄作)
機関科一筋のベテラン。無骨だが信頼は厚い。

水雷科

分隊長:水雷長 (一般的には水雷長が先任将校の場合が多かった)。
所掌業務:魚雷員/魚雷の搭載、陸揚げ、魚雷の発射諸元(あらかじめ発射前に入力するデータのこと)の設定、魚雷の発射作業、水測員/水中聴音機(バッシブソナー)、探信機(アクティブソナー)を使用して目標の搜索等を行う。



田村 俊雄 水雷長 (益岡 徹)
倉本艦長の右腕。



岡山 宏次 水雷員 (山田幸伸)
危険な腹素魚雷を扱うベテラン



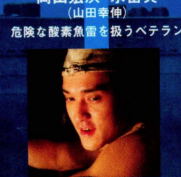
秋山 吾朗 烹炊長 (鈴木 拓・ドラクワドラゴン)
海軍一のカレーを作る名烹炊長と評判。



遠山 肇 搭乗員 (黄川田将也)
自ら回天搭乗を志願。倉本艦長のもと3度目の出撃



有馬 隆夫 機関科員 (伊藤ふみお)
どんな状況でも動じない。桑田を尊敬する。



森 勇平 水雷員 (松尾光次)
岡山のもとで、魚雷を扱う。



久保 憲明 搭乗員 (三浦 悠)
決死の想いで回天での出撃命令を受け。



小島 晋吉 水測員 (奥村知史)
海軍一の「耳」を持つ水測員

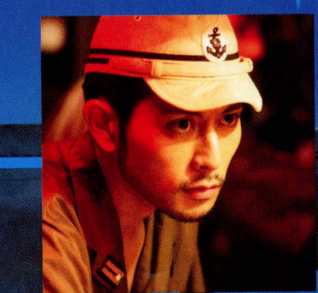


小島 晋吉 水測員 (奥村知史)
海軍一の「耳」を持つ水測員

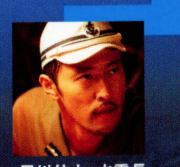


鈴木 勝海 水雷員 (太賀)
潜水艦初乗務。ハーモニカが好き。

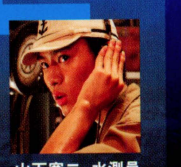
● イ-81潜水艦



有沢 義彦 艦長 (堂珍嘉邦)
最年少で潜水艦艦長になった日本海軍のエース。



早川 伸太 水雷長 (古葉むつとし)
パーシバル戦で有沢を支える



山下 寛二 水測員 (戸谷公人)
パーシバルの撃つべき戦術を伝える

米海軍駆逐艦 パーシバル

海上の知将



マイク・スチュワート 艦長 (デビッド・ウィニング)
冷静沈着。米海軍駆逐艦のサブマリナー・ハンター。イ-77潜水艦の撃沈に執念を燃やす。



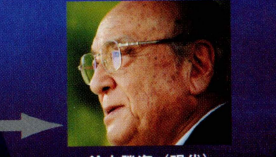
ジョセフ・フリン 副長 (ジョー・レヨーム)
スチュワートの下で的確なサポートをする



マイク・スチュワートの孫



倉本 いずみ (北川景子)
楽譜『真夏のオリオン』が84年後の現代になせ届けられたのか、その手がかりを探し求める。



鈴木 勝海 (現代) (鈴木 雅也)
楽譜『真夏のオリオン』を知る唯一の存命者。いずみに静かに語り始める。

対決



1945年

64年後

2009年